

# 多文化共生事業事例集

年度

R5

団体名

北広島市

助成金名：多文化共生のまちづくり促進事業

事業費総額 1,733 千円

事業名

北広島市多文化共生推進事業

概要

市内企業に対し、外国人労働者の受入れ等に関するセミナー及び個別相談会を実施し、外国人雇用の体制づくりを支援した。また、ワークショップ、日本語教室及び防災教室を開催し、コミュニケーション支援や多文化共生に向けた意識の醸成を図った。

日本語指導が必要な帰国・外国人児童生徒が在籍する市内小中学校 5 校に対し、日本語指導ボランティアを派遣し、週 1 回程度、小中学校の授業サポートが主目的の日本語指導を実施した。

## 事業のポイント

- (1) 市内企業向けにセミナー等を実施、外国人労働者の受け入れ等の体制づくりを支援。
- (2) 市内外国人等を対象に、交流事業を実施し外国人と日本人の繋がり構築を目指す。
- (3) 行政主体の日本語教室を開催し、在住外国人の日本語学習に関する支援を行う。
- (4) 外国人避難者を想定した防災講習会を開催し、地域防災への意識醸成を図る。
- (5) 学校教育課において日本語指導支援ボランティアを派遣し、児童生徒の教育機会の確保、教職員の負担軽減等を図る。

## 事業の背景・目的

本市の外国人住民は、新型コロナウイルス感染症の影響により令和 3 年度は減少傾向にあり令和 4 年 3 月末時点では 330 人であったが、令和 6 年 1 月末現在では 426 人（人口 56,870 人に対し 0.7%）と増加傾向にある。

令和 3 年度から本事業を実施してきたが、交流事業やイベント参加者の減少及び固定化など、外国人への周知や参加者の確保が課題となっている。

今後については、今までの取組内容が外国人のニーズに沿った取組となっていたか、外国人住民を支援する支援機関や雇用する企業側での支援などがある中で、行政として必要とされる支援とは何なのかについて、有識者の見解等を得ながら、今後の北広島市の多文化共生のあり方について検討を行う。

## 事業の詳細

- (1) 外国人雇用セミナー・相談会  
対象：外国人を雇用中または雇用を検討している市内事業者等  
地域：北海道北広島市  
日程：令和 5 年 7 月 21 日（金）13:30～16:00  
会場：北広島市芸術文化ホール活動室
- (2) 多文化共生まちづくりワークショップ  
対象：市内在住または在勤の外国人、多言語パートナー登録者、市民  
地域：北海道北広島市  
日程：令和 5 年 12 月 2 日（土）13:00～15:00  
会場：北広島市役所多目的室
- (3) 外国人のための防災講習会  
対象：市内在住または在勤の外国人、多言語パートナー登録者、市民  
地域：北海道北広島市  
日程：令和 5 年 11 月 3 日（金・祝）13:00～15:00  
会場：北広島市役所多目的室
- (4) 日本語教師による日本語講座  
対象：市内在住または在勤の外国人  
地域：北海道北広島市  
日程：第 1 回 8 月 27 日（日）13 時～14 時～  
第 10 回 10 月 22 日（日）14 時～15 時  
会場：広葉交流センターいこ～よ交流室
- (5) 帰国・外国人児童生徒教育支援  
対象：市立小中学校在籍の日本語指導等が必要な帰国・外国人児童生徒  
地域：北海道北広島市  
日程：週一回程度



外国人雇用セミナー



外国人のための防災講習会

### 事業実施における工夫点・事業の成果等

(1)外国人雇用セミナー・相談会参加者  
 【セミナー】現地：14名(9社)オンライン：4名(3社)  
 【個別相談会】2名(2社)

(2)多文化共生まちづくりワークショップ参加者  
 25名(内訳→外国人：4名 日本人：21名)

(3)外国人のための防災講習会参加者  
 29名(内訳→外国人：10名 日本人：19名)

(4)日本語教師による日本語講座参加者  
 延べ120名(外国人：延べ50名 日本人：延べ70名)

(5)帰国・外国人児童生徒教育支援  
 5名(小学生：4名、中学生：1名)



日本語教室

### 今後の課題・将来に向けての展望等

委託により実施した各種取組について、令和3年度から継続して実施している企業向けのセミナーにおいては、例年、約10社程度の企業の参加があるため、外国人採用への関心度が高い企業が一定数存在することが分かった。アンケート結果から参加者の満足度も高く、今後も関係機関と連携しながら、外国人採用に関する情報提供や支援について、企業向けの支援策の検討を進める。

また、昨年度に引き続き、各種イベントの周知については、外国人雇用企業へ直接訪問や電話掛けを行い外国人労働者への周知を依頼したところであるが、想定よりも外国人の参加者が集まらず、外国人の参加者数については、課題が残る結果となった。

今後は、3年間の取組結果を踏まえ、本市の多文化共生の在り方を総合的に検証し、今後の方向性等について示したビジョンの作成を行う。

帰国・外国人児童生徒教育支援については、日本語指導の経験や資格を所持している方をボランティアとして学校に派遣したところであるが、指導経験が少ない方へのサポート体制が不十分であったことから、指導内容が適切かどうか、ボランティア自身が不安に感じるがあった。次年度以降は、学校及び市教委がボランティアに対して、指導してほしい内容を明確に伝えたいという指導に当たってもらおうよう体制づくりを行う。



多文化共生まちづくりワークショップ

### 事業担当者のふりかえり

・各種イベント等の周知について、外国人住民に関しては、現状、雇用企業等を通じた周知方法のみとなっており、イベント等の情報を伝えるという部分では苦慮したが、参加した外国人住民からの評価は概ね好評であり、日本人との交流などを図ることができた。今後についても、日本人と外国人が互いに共生できるまちづくりを目指し、各関係機関等と連携しながら、本市の多文化共生の在り方を検討する。